

氏名(本籍)	いし い ひさ お 石井久生(茨城県)
学位の種類	博士(理学)
学位記番号	博乙第1925号
学位授与年月日	平成15年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	生命環境科学研究科
学位論文題目	A Geographical Study of Population Characteristics in the Autonomous Community of the Basque Country, Spain (スペイン・バスク自治州における住民特性に関する地理学的研究)
主査	筑波大学教授 理学博士 高橋伸夫
副査	筑波大学教授 理学博士 手塚章
副査	筑波大学教授 理学博士 村山祐司
副査	筑波大学講師 博士(理学) 森本健弘

論文の内容の要旨

本論の目的は、スペイン・バスク自治州における住民特性の空間的構造とその変容パターンを解明することである。バスク自治州においては、バスク語を使用するバスク民族が存在し、かつ19世紀末から20世紀にかけての経済発展にともなう州外出身者の大量流入により、多様な住民特性が展開する。しかしながら、バスク自治州における住民特性に基づく空間構造を総合的に分析した研究はきわめて限られている。特に、バスク語を使用する特異な民族集団の存在から、「社会的出自」次元の重要性が従来から指摘されていながらも、当該次元が出身地やバスク語人口率などの限定された変数に基づき議論されてきた。このため従来の研究においては、近年急激に変化し多様化しつつある人工の言語属性が、社会的出自の次元やその他の次元に反映されなかった。これらの点を考慮しつつ変数選択の作業を進め、1991年と1996年の州センサスデータからデータ行列を用意し、さらに両年次のデータ行列を結合して、247地区×2時間断面を行、59変数を列とする行列を作成した。当該行列に対して因子分析を実施することにより、空間的構造の分析と同時にその経年的変容パターンの分析を試みた。

因子分析の結果、主要3次元(社会的出自、家族の生活周期、社会・経済的地位)と副次的6次元(ブルーカラー労働者の就労形態、世帯構造、バイリンガル能力動態、サービス業、女性就労と建設業、製造業従業者)が抽出された。引き続き、これらの諸次元の特徴、その空間的構造と経年的変容パターンを検証した。その際に、因子得点に対しクラスター分析を適用して地域類型を導出し、因子分析の結果を補足しつつ検証を進めた。

主要3次元の中で最重要な社会的出自次元は、出身地や特定の言語集団への帰属により定義された。その空間構造は、自治州北東部一帯におけるバスクの伝統的出自属性の卓越と、自治州西部から南部にかけての外来的出自属性の卓越という明瞭な地帯分化に特徴が生じた。この地帯分化は、バスク語圏と非バスク語圏により構成される言語圏の空間的分化と一致した。さらに、バスクの伝統的出自属性の卓越する地帯においては、内陸都市に転入した州外出身者の存在を反映し、外来的特性の優位な地域が介在した。経年的変容パターンから、バスクの伝統的出自属性の影響増大が観察された。これについては、最近のバスク語への逆行的言語シフトとの関連から考察を加え、社会的出自次元の経年的動向を規定する要因として、1980年代以降の公教育におけるバイリンガル教育モデル導入をはじめとする政府による言語政策などの制度的支援の重要性が指摘された。

家族の生活周期の次元に関する空間構造は、農村地域における老年人口の卓越と、都市とその周辺地域にお

る若年人口の存在に特徴があった。しかしながら、非都市的性格の強い地域においても、近年進行中の工業団地造成を反映し、若年人口の比重が高い地域類型が出現した。この事例により、近年における産業活動の地域的分散配置が、生活周期に基づく人口の分布に影響を及ぼす様相が理解された。さらに当該次元の経年的変容からは、近年の少子化、高齢化を反映して、州全域における老年人口の影響の増大が観察された。

社会・経済的地位の次元の空間構造は、3つの県庁所在都市とその周辺地域、および海岸保養地における上流層の存在により定義された。都市周辺地域における上流層の分布から、各地方中心都市の機能および歴史的発展過程の差異の検証が可能となった。ビルバオの場合、19世紀末の段階で上流層の郊外移動を経験しており、その結果、同市の北西部における上流層の広範な分布が観察された。これに対し、ドノステア＝サン・セバスティアンの場合、同市に付与された観光都市としての良好なイメージが上流層の都心居住に作用するため、上流層は都心を居住地域として選好する傾向が観察された。ビトリア＝ガステイスの場合、上流層の郊外移動を最近経験し、同市北西近郊における上流層の影響の増大が見い出された。

審 査 の 結 果 の 要 旨

審査対象学位論文では、スペインにおける産業活動の核心地域のひとつであるために移民の大量流入を経験し、かつ得意な民族集団が存在することにより、多様な住民特性が観察されるバスク自治州を対象に、住民特性の空間的構造と変容パターンを解明した。従来の研究では、社会的出自の次元の重要性については確認されているが、分析に採用される変数が制限されることから、当該次元の特徴が必ずしも明確でなかった。さらに従来の研究では、住民特性の経年的変容過程は分析の対象にはされず、そのため重要な検討課題であった。

この論文は、因子分析により抽出された諸次元において、社会的出自の重要性について指摘し、その空間的構造と変容過程から、近年の逆行的言語シフトと地域主義運動の進展にまで踏み込んで考察を加えた。同時に、家族の生活周期、社会・経済的地位などの諸次元を含めて、バスク自治州における住民特性の空間的構造を重層的に把握し、各次元の経年的変容パターンから、人口転換や産業構造シフトなどの、バスク社会が近年経験しつつある諸現象に基づき住民特性を明らかにしている。世界的にも希少なバスク地誌研究であり、バスク自治州における住民特性の経年的変容過程をはじめ明らかにした。この研究成果は世界的に見ても高く評価できる。優れた論文であり博士の学位を授与するに十分な価値があると判定できる。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものとして認める。